

県中山間地域の栽培に適したリンゴ早生品種「紅みのり」

【要約】「紅みのり」は果皮の着色が良く、食味良好で飛騨地域において9月上旬に収穫できる早生品種である。8月の高温条件下でも着色が容易で完熟させても果肉が硬いことから、地球温暖化への対応品種として有望である。

中山間農業研究所 作物・果樹部

【連絡先】 0577-73-2029

【背景・ねらい】

県内中山間地域のリンゴは、直売、朝市、宅配、共同出荷などの多面的な販売が行われており、早生種から晩生種まで様々な品種が組み合わせられている。しかし、近年の温暖化の影響により8月から9月上旬に収穫期を迎える早生種では着色不良や果肉硬度の低下など、果実品質へも悪影響が現れており、高温条件下でも高品質な果実生産が可能なより優れた品種への更新が求められている。

そこで、(国研)農研機構果樹茶業研究部門で育成された早生品種「紅みのり」について、当県中山間地域への適応性を評価する。

【成果の内容・特徴】

- 1 収穫時期は8月下旬～9月上旬で「シナノレッド」より11～14日遅く、「芳明つがる」より2～5日早い(表1)。
- 2 樹姿は中間で樹勢は弱、短果枝の着生が多い。収量性は「芳明つがる」より高く「シナノレッド」と同等、後期落果が「芳明つがる」並みに発生する(表1)。
- 3 果実重は223gと小玉だが、果皮は赤色で着色しやすい。果形は円形で揃いが良く、果面のさびの発生は少ない(表2、図1)。
- 4 果肉硬度は15.2ポンドと硬く、糖度は14.2%と「芳明つがる」よりやや低いが、酸度は0.30g/100mlと「芳明つがる」と同程度で、食感が良く甘みと酸味のバランスがよく食味は良好である(表2)。

【成果の活用・留意点】

- 1 「紅みのり」は平成29年10月に品種登録出願が公表されており、許諾を締結した種苗会社等から購入できる。
- 2 以下は(国研)農研機構果樹茶業研究部門から情報提供された品種特性である。
 - 1) 交配組み合わせは「つがる」×「ガラ」である。
 - 2) S遺伝子型はS₃S₅で、「つがる」などの主要品種とは交雑和合性である。
 - 3) 生理落果は落果防止剤の使用により低減できる。
 - 4) 斑点落葉病には抵抗性がある。

【具体的データ】

表1 「紅みのり」の生育特性（平成24年・樹齢4年生～平成30年・樹齢10年生の平均）

品種	開花期(月/日)		収穫期(月/日)			樹姿	樹勢	短果枝の着生	収量(kg/樹)		後期落果
	始期	盛期	始期	盛期	終期				10年生	累積収量	
紅みのり	4/30	5/5	8/30	9/6	9/12	中間	弱	多	14.7	51.7	中
シナノレッド	5/2	5/5	8/19	8/23	8/28	ヤ直	中	中	12.4	61.4	少～中
芳明つがる	5/1	5/5	9/4	9/9	9/14	開張	弱	中	9.6	42.6	中

※栽植距離: 4.0×2.0m 樹形: 細型紡錘形

表2 「紅みのり」の果実特性（平成24年・樹齢4年生～平成30年・樹齢10年生の平均）

品種	果実重(g)	果皮着色	果形	揃い	サビ程度	果肉硬度(lbs)	糖度(Brix%)	酸度(g/100ml)	肉質	果汁	ワックス
紅みのり	223	多～極多	円	中～良	少	15.2	14.2	0.30	中	ヤ少～中	中
シナノレッド	270	中～多	円	中	少	11.8	13.1	0.49	中	中	中
芳明つがる	283	ヤ多～多	円～円錐	中	少	12.9	14.5	0.24	中	中	中

※栽植距離: 4.0×2.0m 樹形: 細型紡錘形



図1 「紅みのり」の結実状況

研究課題名：飛騨地域に適したモモ、リンゴ等の品種選定と栽培技術の開発（平成21～30年度）

研究担当者：安江隆浩